

世界70億人の暮らしや社会を支える 真のグローバルICT企業をめざして



Q 富士通グループのCSRに関する 基本的な考えを聞かせてください

企業市民としての責任を果たしながら、
情報通信技術 (ICT) を通じて
社会に貢献していきます。

ICTは、人と人とのコミュニケーションやビジネス、金融や経済などの社会基盤を支える上でなくてはならないものとなっています。富士通グループは、常に変革に挑戦し続け、快適で安心できるネットワーク社会づくりに貢献し、豊かで夢のある未来を世界中の人々に提供することを企業理念としており、この実践こそがCSRの中核であると考えています。

また、企業理念を実現していくためには、そのプロセスにおいて、コンプライアンスを守り、環境負荷低減を図るなど、富士通グループの社員一人ひとりが良き企業市民であり続けることが前提となります。こうした観点から、富士通グループの理念・指針であるFUJITSU Wayに則って、企業としての、社員としてのあるべき行動を徹底していくよう社員教育などに力を注いでいます。

こうした取り組みを一層強化していくために、2009年12月には国連が提唱する「グローバル・コンパクト」への支持を社内外に表明しました。

富士通株式会社 代表取締役社長

山本正己

山本 正己
やまもとまさみ Masami Yamamoto

Q 具体的には どのような貢献が可能でしょうか

**環境問題をはじめ、社会が直面する
さまざまな課題解決に貢献していきます。**

地球環境問題は、21世紀最大の課題といわれています。富士通グループでは、1992年に富士通環境憲章を定め、自らの環境負荷の低減に一貫して取り組んできましたが、お客様や社会の負荷低減においてもICTが貢献できる余地は大きいと考えています。例えばICTを用いて交通や物流を最適化したり、送電網や家庭での電力使用量を最適化したりすることによって、エネルギー消費やCO₂排出量の削減に貢献できます。また、地球規模の温暖化対策として、地球上の炭素循環や気候変動などの高度なシミュレーション技術が役に立ちます。

これらのほかにも医療や福祉、教育、農業など、さまざまな分野の課題に対して、ICTを使ったイノベーションが可能です。

Q そうしたICTの恩恵を世界中の多くの人 が受けるためには、何が必要でしょうか

**ICTを、より身近で使いやすいものへと
変えていくことです。**

ICTは、もっと人にとって使いやすいものになっていかねばならないと思います。これまで人は、コンピュータにデータをインプットする、いわば使われている状態とも言えました。しかし現在は、サーバなどの機器や複雑な処理を意識せずにコンピュータリソースを利用できるクラウドコンピューティングや各種のセンサー技術、多様な携帯端末、モバイル通信技術の進展によって、人が背後にある技術を意識せずに、さまざまなサービスを利用できるようになってきています。富士通グループは、こうした特別な知識やスキルがなくてもICTを利用できる



「ヒューマンセントリックの時代」を、技術、製品、サービスを通じて強力に後押ししていきます。同時に、ユニバーサルデザインの追求やアクセシビリティの向上にも取り組んでいきます。

もう一つ、忘れてはならないのが世界における経済格差問題への対応です。ICTへのアクセスは、貧困のなかで暮らす人々がより人間らしい生き方をするための契機になり得ますが、そこには費用の壁が立ちほだかります。その解決策の一つが技術革新であり、日々の技術的な進歩は、同じ性能や機能を飛躍的に安価に提供することを可能にします。例えば、無線通信の技術とインターネットの組み合わせで、非常に安価な音声通話の仕組みが構築できます。実際にアフリカの一部の地域では、この技術によって電話を利用できるようになりました。

Q 富士通がめざす「ICTで実現する豊かな 社会」とはどのようなものでしょうか

**人々が安心してより快適に暮らせる、
ヒューマンセントリックなインテリジェント
ソサエティの実現をめざしています。**

これまでにお話ししたとおり、ICTにはビジネス、暮らし、社会を変えていく力があります。富士通グループは、ICTの利活用の拡大とコンピュータサイエンスによって、人がより豊かに安心して暮らせるインテリジェントな社会を実現することを長期的なビジョンとしています。

この背景には、前述したヒューマンセントリックなICT環境があります。なかでも、クラウドコンピューティングは、これまでICTが十分に使われていなかった分野での利活用を可能にするでしょう。こうした環境を活かして、人の知識や知恵、行動のプロセスや周辺状況の変化などをデータとして蓄積し、分析することで、今まで見えてこなかった社会課題への解決策が見出せるのではないかと考えています。

例えば農業の分野では、気候や土壌、水の状況をセンサーによってデータ化し、また作物の生育状況なども蓄積していくことで、少ない労力、エネルギーで収穫量を高めていく新しいモデルを構築できるはずで、多くの人々が生産性や安全性の向上、国内自給率の向上などの課題に挑戦しながら持続的に事業の成長をめざしていけると思います。また、交通の分野では、自動車や道路に埋め込まれたセンサーから、混雑情報や路面状況を収集したり、運転者の操作情報をモニタリングしたりすることで、交通渋滞の解消や事故を防止できるようになります。さらに、ヘルスケアの分野に応用すれば、



携帯電話で自分の健康状態が医者や病院のデータとながらることで、日常の健康管理や病気の予防に役立つほか、より適切な医療サービスを受けたりすることも可能になるでしょう。

最後に、 読者にメッセージをお願いします

新たな企業メッセージを旗印に、 真のグローバルICT企業になることを めざします。

富士通グループは、お客様をはじめとするさまざまなステークホルダーの皆様とともに、持続的に成長していくことをめざしています。そのために、経営の基本方針である「お客様のお客様起点」、「グローバル起点」、「地球環境起点」を着実に実行していきます。

ICTを通じた社会貢献、そしてインテリジェントな社会の実現には、特にお客様とのパートナーシップが欠かせません。当社は、お客様とともに豊かな未来を築く「shaping tomorrow with you」という、新しいメッセージを2010年4月から発信しました。これは単なるスローガンではなく、インテリジェントな社会の実現をめざしていくという、私たちの真剣な決意を込めた言葉です。このメッセージを旗印に、世界の富士通グループ17万人が一つのチームとなり、企業市民としての責任を果たしながら、世界70億人の暮らしや社会を支える真のグローバルICT企業になることをめざしていきます。

野副元社長辞任に関する社外監査役コメント

「野副氏がとった行動は、FUJITSU Wayの最高の体現者にならなければならない社長として不適切なものでした。問題の対処の過程でも、社外取締役、社外監査役にしっかりと情報が伝わり、それぞれが考えた上で決断し、その上での結論が辞任要請という形になった。富士通の企業統治、リスクマネジメント体制は非常にしっかりと機能したということ、是非ご理解いただきたいと思います。」
監査役 三谷 紘

※ 野副元社長辞任に関する、これまでの経緯、当社の対応などについては、当社の公開ホームページにて状況を随時公開していますので、ご参照ください。
<http://jp.fujitsu.com/>